

## 東京都市大学横田研究室（都市生態計画研究室）のご紹介

東京都市大学横浜キャンパス（都筑区牛久保西）にある環境学部環境創生学科に2015年に創設された横田研究室は、「都市生態計画」を専門とする新しい研究室です。「生態系ネットワークの保全・再生」「コミュニティによる緑地の管理・活用」「グリーン・インフラの評価と再構築」を目標に、4年生11名、3年生9名の計20名（2016年度）が地域に根付いた研究を展開しています。身近なチョウ・トンボ・鳥などを対象とした生態系調査はもちろん、緑地環境調査、社会意識調査、人の心理調査など、調査のアプローチも多面的です。2015

年度より、京浜臨海部のトンボ一斉調査にも研究室を挙げて参加させて頂いています。これから、学生が主体となって、地域の皆様と連携した研究・実践活動を行ってまいりますので、どうぞよろしくお問い合わせします。



## 神奈川県活動PR展に出展しました

2016年2月29日から3月11日まで、神奈川県役所で開催された「活動PR展」に出展しました。PR展では、神奈川県民活動支援センターの登録団体など約50団体が出展していましたが、環境分野の活動団体では、当フォーラムのみの参加となっていました。今後積極的に活動紹介の機会に参加していきたいと思っています。



## 赤トンボの復活を目指して

### ～第26回全国トンボ市民サミットたつの大会～

♪夕焼け小焼けの 赤とんぼ…♪と詠んだ三木露風が生まれた兵庫県たつの市で開催された2015年のトンボサミット7月19日、20日。赤トンボの代表格であるアキアカネの減少は特に西日本で顕著ですが、たつの市でも田んぼを群れ飛ぶアキアカネの姿が、ほとんど見られなくなりました。

そこで、童謡「赤とんぼ」の里を復活しようとして、「たつの・赤トンボを増やそう会」が平成20年に発足しました。この会では、アキアカネの人工飼育から、農家と協力して田んぼでの自然繁殖へと取り組んでいます。トンボに優しい田んぼから収穫されるコメは、人間にとっても安全・安心で、個性・特徴がある「たつの赤とんぼ米」として販売されています。たくさんアキアカネが、たつのへ帰ってくるのもそんなに遠いことではないと期待しましょう。

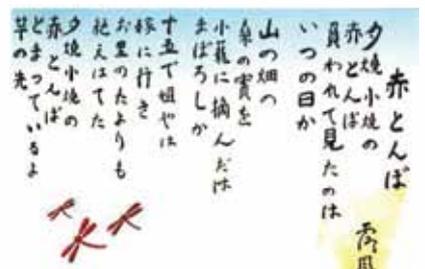
サミットのプログラムは、1日目にフィールド見学、市内観光、2日目に6つの講演が行われました。大会会場・宿泊ともに、たつの市を一望できる高台に建てられた国民宿舎「赤とんぼ荘」。サミットを通じて、今回もトンボと自然を愛する多くの方々とお会い出来たいへん有意義な2日間でした。2016年は、和歌山県海南市で10月に開催されます。（トンボみちファンクラブ 柴田芳宏）



人工飼育で羽化したアキアカネを放虫



アキアカネを育む農法の研究フィールド



# 京浜の森 トンボとヤゴの 図鑑

解説・写真 梅田孝

## マルタンヤンマ



オスの複眼や胸などが美しい青色の模様がある中型のヤンマ。抽水性の水草が繁茂する池や湿地を好みます。強い黄昏飛翔性があり、夕方に一直線に飛び姿が見られます。横浜では5月中旬から9月まで見ることができます。



複眼が横に張り出した典型的なヤンマのヤゴです。水草につかまって生活しています。ヤンマの中では中型ですが獰猛で、他のヤゴやオタマジャクシなどを捕らえて食べます。

## チョウトンボ



独特の紫紺色の翅を持つ大変美しいトンボです。近年横浜でよく見られるようになってきました。横浜では6月中旬から9月まで見ることができます。



太短く、後あしがとても長い小型のヤゴです。水草が繁茂する池や沼にしか生息しません。水底の泥や、水草の根際などに浅く潜って生活しています。

## マイコアカネ

近年全国的に数を減らしているアカトンボの一種です。青白い顔面を化粧した舞妓さんに見立てています。横浜では数えるほどしか見つかっていません。

写真 渡利純也



三角形の頭をした典型的なアカネ型のヤゴです。田んぼや池、湿地などの水底の泥に浅く潜って暮らしています。横浜では、ヤゴは発見されていません。

写真 渡利純也



## ノシメトンボ

翅の先が黒い大型のアカトンボです。アカトンボですがあまり赤くなりません。田んぼや大型の抽水性の水草が繁茂する池を好みます。オスとメスがつながったまま、水草の上から卵を産み落とす連結打空産卵が見られます。横浜では急激に数を減らしています。



三角形の頭をした典型的なアカネ型のヤゴです。

水底に浅く潜り込んで生活しています。腹部第8節の横にあるトゲ(ソクキョク)がアカアカネや、マイコアカネ、コノシメトンボのヤゴよりも長いので見分けることができます。

## ハラビロトンボ

腹部が太く、平べったい小さなトンボです。ごく浅い池や湿地、休耕田などに見られます。横浜では5月初旬から9月まで見ることができます。



小さく、毛深いヤゴです。一時的に干上がるような、浅い池や湿地、休耕田などに生息します。乾燥に強く一時的なら水が干上がっても死ぬことはありません。



## シオカラトンボ

京浜臨海部では最も普通に見られる種のひとつです。成熟したみは体に白い粉を吹きます。横浜では4月から10月初旬まで見ることができます。



シオカラトンボの仲間のヤゴはどれも良く似ています。シオカラトンボは背中にトゲがありません。そのため同じ場所に生息するオオシオカラトンボと見分けることができます。

